



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四一八号）

りっか
立夏

五月五日

おかげ横丁で直会を

日差しのまばゆい季節、暦は早くも夏を迎えました。ここからは初夏となります。伊勢でも田植えが行われ、田んぼには早苗が揺れています。神社の神田では早乙女らによる御田植祭が雅やかに執り行われます。

おかげ横丁にお米にちなむ新しい店がお目見えしました。といっても米屋ではなく、日本酒が味わえる店「味匠館森下酒店」。横丁のほぼ中央、太鼓櫓の目と鼻の先に店開きしました。お酒はお米を原料に醸造したもの、そのため、神さまのお供えには日本酒は欠かせません。伊勢神宮にお参りした後、ここでお神酒ならぬ、お酒を呑んでもらおうという趣向です。

木の香漂う店内はカウンターとテーブル席が三つ。壁には酒樽や一升瓶がずらりと並びます。鳥羽の酒屋・森下酒店直営の店ゆえに、日本酒は百種類以上を揃えるといえます。なかでもおすすめは、内宮限定版のもの。お伊勢「作」など、初めて目にするものもあります。「三重のお酒を楽しんでもらいたい」と磯和怜店長は気軽にスタッフに声をかけてほしいと言います。

「三種類の飲みくらべ」などで試してみたいところです。

そして、お酒に合うフードメニューも豊富です。名物の松阪牛のてまり寿司は、少しあぶった肉が香ばしく、とろけるような美味しさ。一口サイズで食べやすいのも魅力です。そして、伊勢まぐろの握りは醤油がすでにかけてあり、こちらも舌の上でとろけます。伊勢神宮のお膝元であるため、「米」をテーマにして、寿司メニューを作ったと言います。

この店が盛り上がるのは、太鼓櫓で神恩太鼓による和太鼓が打ち鳴らされる時とか。お通しの声も聞こえないと言いますが、太鼓の音を身体ごと感じながら、呑む一杯。早苗の無事の生長を祈りながら、美酒をいただきたいものです。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第三回 豊穰祈願 日本酒の宴

5月14日、伊勢神宮にて風日祈祭(かざひのみさい)が執り行われます。
風雨の災害もなく天候が順調で、五穀の稔りが豊かであるよう御幣を捧げてお祈りするお祭りです。
おかげ横丁では風日祈祭を奉祝し、三重の日本酒をご披露して「祈りと稔り」に想いを致しながら
愉しむ宴を開催いたします。

と き／5月18日(土) 17:00～19:00

ところ／おかげ横丁一帯

※天候などの諸事情により内容を変更する場合がございますので、予めご了承ください。

参加費／【飲み比べ券】前売：3,500円(当日：4,000円)

※日本酒の2時間飲み比べと日本酒が当たる抽選会に参加できます。

【お愉しみチケット】前売：2,000円(当日：2,500円)

※5枚綴りで1枚につき日本酒1杯又は500円分の料理やテイクアウトメニューに使えます。

申込み／おかげ横丁総合案内「おみやげや」、「味匠館 森下酒店」、
「おかげ横丁オンラインショップ」

○ みそか寄席

毎月末日の「みそか」に合わせて、江戸の趣きを感じる「すし久」2階大広間に開催される落語会。
5月は、桂文我氏、月亭文都氏、笑福亭呂好氏の3名をお迎えしてお送りします。
笑いの一夜をお過ごしください。

と き／5月31日(金) 1部 16:00～(受付15:30～)、2部 19:00～(受付18:30～)

ところ／すし久2階

出演者／桂文我、月亭文都、笑福亭呂好

木戸銭／前売り券2,200円(税込)、当日券2,500円(税込)

※前売りで定員になった場合は、当日券の販売は行いません。

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 日本のしきたりの何故を知る～季節を読むとは～

冠・婚・葬・祭・礼・見舞い、それぞれにしきたりがあります。

「冠」は誕生から始まって亡くなるまで、「婚」は婚約、結婚などへのお祝い、「葬」はお悔やみの方法、「祭」は行事とも密接につながってお正月から師走、初詣からひな祭り、花見、七夕、秋まつりなどなど、それは複雑、それが季節ともつながり、一年をメリハリのあるものにすると同時に人とのかかわりや社会とのかかわりを円滑に楽しいものに行っていると言っても過言ではないでしょうか。しきたりの何故を、季節を絡めながらお話いただきます。

日 時／5月14日(火) 18:30～20:00

講 師／神崎 宣武(民俗学者)

参加費／一般 1,700円 会員 1,200円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

す
菓 づばめ

今年も軒先に燕が巣を設ける季節になりました。
黄色のくちばしを広げ、親燕の帰りを待つ赤ちゃん燕。
そんな風景を、お菓子のかたちに残しました。
可愛いくちばしはレモンです。

じんぐう ばら
神宮の 薔薇

神宮会館が建つ丘は、雪の如く咲く花に例えて「如雪園」と呼ばれていました。
今では百五十種四百五十株の花々が美しい「神宮ばら園」となっています。
葛寒天を花びらにし、白あんを包んだばらの姿をお楽しみ下さい。

ナンジャモンジャ

外宮・勾玉池のほとりに咲くヒトツバタゴの木。
別名をナンジャモンジャといい、緑と白のコントラストが見事です。
白く細やかな花々を山芋を使ったきんとんで表現しました。